

会 議 概 要

会議の名称	平成28年度臨時社会教育委員会議
開催日時	平成29年1月25日(水) 13時30分 開会 16時40分 閉会
開催場所	湧別町文化センター さざ波 中会議室
出席者名	宮澤委員長、石垣副委員長、梅田委員、佐藤(あ)委員、 高柳委員、平野(寿)、平野(俊)委員、深谷委員、多田委員、 三品委員、関谷委員 11名 教 委 ～岡崎課長、田中館長、中島副館長、根子補佐 高橋係長、杉森係長、林主任、太田主任
欠席者名	安瀬委員、清水委員、森谷委員、 佐藤(正)委員、緒方委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議 事 議案第1号 第2次社会教育中期計画の策定について ～第1次社会教育中期計画のふりかえり
会議資料	平成28年度臨時社会教育委員会議議案
会議録	■ 有 (<input type="checkbox"/> 全文筆記 ■要点筆記) <input type="checkbox"/> 無
備考	

結果要旨

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 事

○第2次社会教育中期計画策定について

～第1次社会教育中期計画のふりかえりとして、別紙のとおり協議しました。

協議順

⑦図書館活動

⑧博物館・文化財保護活動

①家庭教育

②少年教育

③青年教育

以降の項目については、3月の定例会にて行う。

⑦図書館活動

梅田：図書館は町の情報の拠点である。

話題の本の展示や町出身の歌手のCD等が紹介されている。また、資料を依頼して、図書館には無かったので、道立図書館等から取り寄せてくれたことがあった。ありがたい。

宮澤：人口1万人弱の町に2つも図書館がある。

将来、公共施設の統合の動きがある。教育施設は難しい選択となる。

将来に残して行きたい。利用実績等数値化すること有効（わかりやすい）、図書館側からも情報発信が必要、ボランティア（本の修理、読み聞かせなど）のことも町民に知ってもらいたい。

岡崎：国より、公共施設の維持管理計画作成の方針があったため、来年度から統合や更新等について具体的に話し合っていくこととなる。耐久年数を迎える施設に対しては、建て替え等の更新には多額の費用がかかるため、ひとつひとつの施設に対し、新しい町の位置づけ、方針の策定を行う。

図書館や体育館、社会教育施設について、社会教育委員、図書館協議館委員、スポーツ推進員と相談し、計画の策定を行う予定。

三品：今の人は本を読まない、漫画やアニメばかり。

どんな方法ならいいか考えたら、小さい時の絵本は読みやすいが、少し文字が多くなるとつまずいてしまう。小学校での本に対する取り組みが必要。

田中：小学校と図書館の連携としてH28 モデル校2校を選定し、H29 は全校で行う。図書館司書が積極的に関わっていく。

平寿：自分は本を買って手元に持っておきたいタイプ、図書館にはほとんど行くことがない。今はネットで何でも調べることもできるし、注文することも出来る。図書館に来る人は固定されている。

図書館に来てもらう時代はもう遅れている。これからは図書館から発信しなければならない。

例えば、それぞれの個人に司書が本を選定し月に3冊程度配送するサービスなど

田中：本の選定・宅配サービス図書館としても行いたい事業、今後、検討していく。

石垣：ネット等ですぐに本が手に入る時代。図書館の役割の一つとして、世界を広げる役割がある。自分の好きな物だけ見ていると世界がどんどん狭くなっていくので、全く興味のない本等、色々なジャンルの本を手にとってもらい、世界を広げてほしい。

宮澤：フレッシュさがほしい。毎回行くたびに新しい本の発見等。

梅田：特別展示は地域に密着した素晴らしい内容なので、もっと広報活動をして、いろいろな人に見てもらいたい。展示内容のリクエストを取ってみるのも良い。

関谷：今は貸出数の多さが価値ではない。昔のイメージを捨てて、本に触れる機会を増やすこと。芭露小では道立図書館の協力で子どもは本を与えれば読むことを知った。きっかけを与えてあげることが必要と感じた。

⑧博物館・文化財保護活動

三品：遺跡の報告会をやった時に、「こんなに人が来るんだ」と感じた。事業などで見たことがない人が多く参加していた。機会があれば、町のことを知りたいという想いを感じた。興味を持っている人が潜在的にいる。今後もこのような事業を行って戴きたい。

中島：市川遺跡の調査終了後、報告会を予定している。道教委の事業なので現地での説明があるか未定だが、内容や日程を調整し、皆様へお知らせしたい。

関谷：新任教諭や転勤してきた教諭は、湧別の町の歴史等を学ぶため、必ず学芸員の説明を聞いている。他の町には無い取り組み。

また、体験プログラム等の冊子があれば、先生も授業の計画を立てやすく、利用しやすい。

田中：来年度、現在あるプログラムをまとめて、各学校に情報発信したい。

梅田：町内の学校の授業で利用しているのか。

中島：小学校3～4年生はカリキュラムに郷土学習の時間があるので、利用していただいている。

梅田：湧く湧くで掲載されている博物館だよりはとても良い資料なので、一つの冊子にまとめて整理してみてもどうか。

平寿：他町村の博物館・郷土館との差別化はされているか。

中島：湧別は先史と開拓がメインであり、管内をみても、体験プログラムを揃えていて、学芸員が常駐しているところは少ない。

梅田：道文化財指定のアクセシソウが少なくなっている。保護、整備の計画はあるのか。

中島：旧町時代になるが、道に保護、整備の打診をした経緯がある。道の回答は、アクセシソウだけではなく、他の原生植物も生息している状態なので、人の手を加えないように指示があった。また、昭和4年にサロマ湖の湖口が開いた時から、90年弱しか経過していないことから、生態系としてはとても短い期間であり、今後どう生態系が変化していくかわからない。整備等には、専門家の見解が必要である。

① 家庭教育

梅田：家庭教育はふりかえりをみても課題が多い。次期計画で具体的な方策を立てることが必要。

新しいものではなく、今ある情報をうまく組み合わせて、全体に発信していくことが大切。

宮澤：保育所でのクラス分けの仕方の違いで、その後の小学校のクラスがまとまらないことがあると聞いている。

関谷：保育所は管轄が違う。子どもを教育するのではなく「預かっている」という感覚かもしれない。

佐藤：この年代にしつけや生活習慣をしっかりすることが大切。

宮澤：1年生になるために準備が必要。子どもたちの生活のリズムをしっかりつくるために、保育所との連携が必要、我々も考えていかなければならない。

高柳：支援学級は少人数で十分なサポートを受けているので、支援を必要とする子どもにとってはとても良い環境だと思う。

平寿：利便性を追求する時代になったため、家庭教育を日常の家庭の中で学ぶ事が無くなっている。試行錯誤をする様な考える機会無くなっている。

② 少年教育

平寿：子ども会の行事では、親が一生懸命応援している。子どもと親と一緒に一生懸命になることはなかなか無い機会なので貴重だと思う。

岡崎：新しく全町の子どもが集まる機会を提供するのは難しいので、子ども会の事業や小学5年生の児童宿泊研修の事業がそれに当たる。児童宿泊研修は、28年度より全

小学校6校の参加となり、全町の小学5年生が集まる機会となっている。

関谷：児童宿泊研修は好評だった。他の市町村では行っていない。

寺子屋塾について、人材発掘を行い、もっと魅力のあるプログラムを考えてほしい。

③ 青年教育

岡崎：現在、上青協の人数は20人以上いる。上部組織から抜けて、地元中心の活動を行っている。

平寿：昔はもっと人数が多く活動が活発だった。今の時代、明確な目的な無い団体は衰退していく。

青年団があることによって、異業種間交流がなされている。

梅田：まちづくり青年会議は、若い人の意見も聞くことができるし、町の活性化になり、こういう取り組みができたらいいなと思った。堅苦しいことではなく、単に集まって飲み会を開くだけでもいいと思う。

宮澤：成人式は、式典だけではなく、二十歳の主張にて若者の発表を聞く事ができてとても良い機会となった。

(16:40 終了 以降の項目は3月定例会議にて協議する)

平成28年度

臨時社会教育委員会議案

と き 平成29年 1月25日 (水)
午後1時30分～

ところ 文化センターさざ波 中会議室

<会議日程>

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 事

議案第1号 第2次社会教育中期計画の策定について ～別紙資料
～第1次社会教育中期計画のふりかえり

4 委員長あいさつ

5 閉 会

湧 別 町 教 育 委 員 会

社 会 教 育 委 員 名 簿

役 職	氏 名	住 所	出欠	備 考
委員長	宮 澤 道	北兵村二区		
副委員長	石 垣 誠 一	港 町		
	梅 田 唯 士	上湧別屯田市街地		
	平 野 寿 雄	上湧別屯田市街地		
	多 田 恵 美 子	緑 町		
	佐 藤 あ け み	登栄床		
	深 谷 聡	計呂地		
	清 水 ま き	南兵村三区		
	高 柳 雅 一	北兵村二区		
	森 谷 和 洋	中湧別東町		
	三 品 博 恵	南兵村三区		
	平 野 俊 幸	南兵村二区		
	安 瀬 勇	上湧別屯田市街地		
	緒 方 隆 人	北兵村一区		
	関 谷 正 樹	芭 露		
	佐 藤 正 行	中湧別南町		

教育委員会

教育長 牧野裕司

社会教育課長 岡崎公俊、課長補佐 根子敏男

社会教育係長 杉森伸一、社会教育係主任 太田雅史

スポーツ振興係長 藤本祐司、スポーツ振興係主任 片桐圭輔

文化振興係長（根子敏男）、文化振興係主任 土佐信太郎

図書館長 田中 仁、管理係長 高橋結香梨

奉仕係長 北村公樹、奉仕係主任 茂利泰史

ふるさと館JRY館長（田中 仁）、副館長 中島一之、学芸係 林 勇介

議案第1号

第2次社会教育中期計画の策定について

～ 第1次社会教育中期計画のふりかえり

- ①家庭教育 …… P 2～3
- ②少年教育 …… P 4～5
- ③青年教育 …… P 6～7
- ④成人教育 …… P 8～9
- ⑤高齢者教育 …… P 10～11
- ⑥芸術文化活動 …… P 12～13
- ⑦図書館活動 …… P 14～15
- ⑧博物館活動 …… P 16～19
 - ・文化財保護活動
- ⑨スポーツ振興 …… P 20～21
- ⑩生涯学習の
基盤整備 …… P 22～23

(推進目標と推進項目)

家庭教育 推進目標	子どもは町の宝 手を取り合い、支え合って育てよう
--------------	--------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学習機会の提供	●家庭教育への理解を深める研修事業を充実する。	家庭教育学級が主体となり実行委員会を組織し、家庭教育研修会の企画から運営までを継続して行うことができた。また、講師謝礼等運営費の一部助成を実施した。
	●家庭教育を担う保護者が必要とする情報を発信する（情報誌やインターネットなど各種メディアの活用）。	『湧く湧く』や町ホームページなど既存の媒体を活用する手段は持っているものの、肝心の保護者が求める情報内容を収集し継続的に発信するにはいたらなかった。（情報源の発掘が課題）
活動等の支援	●「家庭教育学級」など、家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。	教育アドバイザーによる指導・助言を継続している。小中学校の教頭に家庭教育推進員として携わってもらっている。また、運営費の一部助成を実施している。学校単位で保護者同士が共に学ぼうとする意欲や活気の醸成のため、支援を継続している。
	●子育てサークル等の育成と支援を充実する。	「ママとキッズのオープンブックカフェ」の取り組みへの支援を行っている。
学習環境づくり	●「家庭教育学級」の全町の小中学校開設を促進する。	既存の上湧別地区4小学校それぞれの家庭教育学級において、参加者数が増えず運営に苦慮する中、他校の新規設置についても進まないのが現状。学級のない学校についても、家庭教育推進員会議においてPTAの事業を含めて全校で情報交換する場の確保に努めている。
	●孤立しがちな子育て世代を支援するためにボランティアを育成する。	道教委が進める、家庭教育学びカフェ推進事業における指導者「家庭教育ナビゲーター」養成研修を受講され、ボランティア登録されている。
	●子育ての悩みや喜びをわかちあえる「ママ友プロジェクト」（仮称）を創設する。	「ママとキッズのオープンブックカフェ」の取り組みへの支援を行っている。
連携・ネットワーク	●花火の打ち上げなど、子どもの誕生を祝福する地域ネットワークを構築する。	民間有志による「子どもの誕生を祝う実行委員会」が設立され、平成28年度から地域での花火の打ち上げとハッピーバースデーの放送が行われているが、ネットワークの構築までには至っていない。
	●家庭教育を担う保護者の発言が反映されるメディア（＝情報媒体）を構築する。	スマートフォンアプリによる登録制度の活用が想定されるが、未だ進んでいない状況である。
●子ども支援センターや図書館など、各種関係機関・団体との連携を図る。		家庭教育研修会では、幼稚園・子育て支援課（保育所）・湧別高校にも周知取りまとめを依頼して運営している。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

意見・課題等	
項目	課題解決のための方策
	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育への理解を深める研修事業を充実する。 ● 家庭教育を担う保護者が必要とする情報を発信する（情報誌やインターネットなど各種メディアの活用）。
学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 「家庭教育学級」など、家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。 ● 子育てサークル等の育成と支援を充実する。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「家庭教育学級」の全町の小中学校開設を促進する。 ● 孤立しがちな子育て世代を支援するためにボランティアを育成する。 ● 子育ての悩みや喜びをわかちあえる「ママ友プロジェクト」（仮称）を創設する。
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 花火の打ち上げなど、子どもの誕生を祝福する地域ネットワークを構築する。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育を担う保護者の発言が反映されるメディア（＝情報媒体）を構築する。
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども支援センターや図書館など、各種関係機関・団体との連携を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本来に支援を必要とする人が参加してくれないことから、必要としている人に対する積極的なアプローチが必要。（例えば、福祉と連携し、親がかからず来る町の検診や就学時検診での事業等） ● 学校だよりには、校長先生のお話など良い情報が書いてあることが多い。各学校だよりをひとつとして情報誌にしてみてもどうか。家庭教育の情報源となるのではないが。 ● 親子で共有できる・話し合えることを意識した記事づくりを。
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ● ママとキッズのオーブンブックカフェでは、図書館などから支援をいただき感謝している。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級がなくても、PTAにより同じ取り組みを行っている学校もあり、役割を補っている。 ● プライベートな問題を話し合うことは、非常にデリケートなので、ルールづくりや指導者が必要。

(推進目標と推進項目)

少年教育 推進目標	少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう
--------------	----------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学習機会の提供	● 地域の特性を生かした数多くの体験学習活動を提供し、失敗を恐れず、失敗から学ぶ多くのことを経験する機会を提供することにより、豊かな人間性の養成を図る。	児童宿泊研修会、ふるさと寺子屋塾、子ども会リーダー研修会などを実施し、さまざまな体験学習活動の機会を提供している。これらの活動を通して多くの失敗や成功を経験出来ている。
	● 年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を創設する。	青少年指導センターの主催により、全町の小中学生を対象としたスポーツ事業を開催している。特に、湧別地区の各子ども会を取りまとめる連合組織「湧別地区サポーター協議会」を立ち上げ、湧別地区からの参加を促進している。
活動等の支援	● 子ども会や青少年指導センターを支援する。	各地区の子ども会やその連合組織である青少年指導センターの活動を支援し青少年健全育成に努めている。
学習環境づくり	● 異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図る。	生きがい大学や寿学級生による小学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を行っている。
	● 小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。	年に2回のリーダー研修会を開催し、地域子ども会が自主的、主体的な運営と活動が進められるよう、地域子ども会の役割を認識させるとともに、リーダーとしての心構えや自覚を促し、そのために必要な知識や技術の習得を図っている。
	● 地域の成人指導者の活用を図る。	青少年指導センターの青少年指導員や百人一首実行員会の指導者等、その分野で精通した指導者を発掘及び育成し、青少年のために活動を行っている。
連携・ネットワーク	● 小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。	自主的な活動を展開している青年団体協議会の活動支援を行い、子どもを対象とした冬季事業などを開催し、地域を活性化する活動を行っている。
	● より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。	小学5年生を対象とした児童宿泊研修では、学校の担当教諭との打ち合わせを事前に行い、より魅力的なプログラムとなるよう検討している。
	● 小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。	小学生低学年を対象にチャレンジスポーツを開催し、日頃、接することの少ない様々なスポーツの楽しさを味わってもらおう。
	● 児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。	児童センターで行っているカルタ教室の参加児童に対し、教育委員会主催のカルタ大会への参加の呼びかけを行うなどの連携を図っている。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動を提供し、失敗を恐れず、失敗から学ぶ多くのことを経験する機会を提供することにより、豊かな人間性の養成を図る。 ●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を創設する。 	
活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会や青少年指導センターを支援する。 ●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。 	
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。 ●地域の成人指導者の活用を図る。 ●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。 	
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。 ●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。 ●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。 	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

<p>青年教育 推進目標</p>	<p>青年は町の原動力 自らを磨き高めよう</p>
<p>項目</p>	<p>課題解決のための方策</p>
<p>学習機会の提供</p>	<p>●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 ●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。</p>
<p>活動等の支援</p>	<p>●青年団体協議会が行う自主活動を支援する。 ●地区研修事業等への参加を奨励する。</p>
<p>学習環境づくり</p>	<p>●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。 ●若い女性の社会参加を図る。 ●団体リーダーの養成と活用を図る。 ●地域活動への参加を奨励する。</p>
<p>連携・ネットワーク</p>	<p>●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。</p>
<p>人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる</p>	
<p>方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）</p>	
<p>関係機関に案内を行うとともに生涯学習情報誌や各公共施設に掲示する等の方法により情報提供を行い、参加を推奨している。 新成人を祝い励ますとともに、式を契機に社会人としての意識高揚を図るため、式典を開催している。小学6年生に対し、「20才の自分へ」というタイトルの作文を募集し、成人式当日に配布している。 高校生リーダークラブ「Rainbow prop」や湧別高校ポランティア同好会等と連携し、社会教育事業の参加や研修会の参加を支援している。 年間の活動に対して助言等を行うとともに、青年会館の提供や運営費の補助を継続している。主催事業の「雪中ドッチボール大会」では、子ども会会員から事業の参加者を募り、大会当日の支援を行っている。 遠軽地区青年研修事業は平成25年度廃止された。 青年団体協議会は上部組織に所属していないため、近年は大会等へ参加していないが、青年を対象とした各種研修会の情報提供を行うなど、参加を推奨している。 町部局で進める「産業間連携まちづくりワークショップ」では、商工会・漁協・農協などの青年・女性組織が協議する場が提供されている。しかし、各青年組織が1つのテーマについて語り、学び合う「まちづくり青年会議」は創設できていない。 未婚女性を対象とした事業展開は進んでいないのが現状。社会教育が果たすべき役割を模索している。 青年団体協議会の自主的な活動の中からリーダーの養成を図った。また、屯田セタまつりやクワン大会などの地域活動への参加を図った。</p>	
<p>商工会青年部の主催イベントに漁協青年部、JAゆうべつ青年部、JAえんゆう青年部、上湧別青年団体協議会が協力するなど青年同士の連携が見られている。</p>	

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 ●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。 	
活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●青年団体協議会が行う自主活動を支援する。 ●地区研修事業等への参加を奨励する。 	
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。 ●若い女性の社会参加を図る。 ●団体リーダーの養成と活用を図る。 ●地域活動への参加を奨励する。 	
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。 	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

成人教育 推進目標	成人は町の大黒柱 すすんで地域に関わろう
--------------	----------------------

項 目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学 習 機 会 の 提 供	●幅広い学習ニーズに対応する学習機会の提供と学習意欲を喚起する。	生涯学習情報紙で、主催事業のみならず関連する情報の周知にも努めている。生涯学習に関する相談にも応じている。
	●ふるさとを学ぶ機会を創設する。	ふるさとから学ぶ会との共催事業として「ふるさと講座」を開催し、湧別町にこだわった歴史、産業、地域等について学ぶ機会を提供する。
	●既存事業（町民大学等）の魅力を広く伝える。	広報、新聞等で町内外に広報活動を行うとともに、多くの町民が参加したいと思う町民大学を自指し、魅力ある講師や旬の講師を実行委員会の目線で招聘している。
	●地域に関する学習機会を提供する。	ふるさとから学ぶ会との共催事業として「わが町のお宝をたずねる旅」を開催し、町にあるお宝の魅力、すばらしさ、価値を知る方々の案内で、町のお宝を紹介する機会を設けている。
	●社会教育各種団体等へ支援を図る。	はまなすボランティア、PTA、各実行委員会等それぞれの活動に拠じた支援をしている。
活 動 等 の 支 援	●おたがいの仕事や暮らしのびりを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。	「ふるさと講座」では漁業や医療をテーマとするなど、それぞれの立場において地域の産業を学ぶ機会となっている。
	●自らが企画し実践する活動の支援を充実する。	生涯学習住民活動推進事業により、町民によるグループ・サークル等が自主的に町民に対して行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行っている。
学 習 環 境 つ くり	●既存事業のイノベーションを図る。	各事業とも反省評価を行い内容の検討を繰り返すことで、常に変化するニーズの把握に努め、魅力ある事業展開に努めている。
	●行政と住民の協働事業を推進する。	実行委員会等の団体と教委とが同じ目的意識を持って事業に取り組みめるような関係作りに努めている。
	●参加者に開会日時や託児サービスなどを配慮した事業を行う。	年間の事業が、ある時期に集中したり重ならないよう配慮している。また、町民大学においては講演内容によって託児所を設けるなどの配慮をしている。
	●学習を支援するコーディネーターを育成する。	難しい課題であり、進んでいない状況。
連 携 ・ ネ ッ ト ワ ーク	●各種団体間の交流を促進する。	計画的、組織的な交流促進には至っていない。
	●関係機関との連携を図る。	都度、必要に応じて連携を図りながら事業展開している。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

項 目	課題解決のための方策	意見・課題等
学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。 ●ふるさとを学ぶ機会を創設する。 ●既存事業（町民大学等）の魅力を広く伝える。 ●地域に関する学習機会を提供する。 	
活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●社会教育各種団体等へ支援を図る。 ●おたがいの仕事や暮らしぶりを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。 ●自らが企画し実践する活動の支援を充実する。 	
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●既存事業のイノベーションを図る。 ●行政と住民の協働事業を推進する。 ●参加者に開会日時や託児サービスなどを配慮した事業を行う。 ●学習を支援するコーディネーターを育成する。 	
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●各種団体間の交流を促進する。 ●関係機関との連携を図る。 	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

高齢者教育 推進目標	高齢者は町の知恵袋 豊かな経験を地域で生かそう
---------------	-------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 生かがい大学、寿学級を開設し、高齢者が生かがいと充実した生活を送ることができるよう学習と活動の機会提供に努めている。 ● 小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図っている。
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ふるさとを伝える機会を創設する。 ● 生かがい大学・寿学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。 ● 次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。
学習環境の境づくり		<ul style="list-style-type: none"> ● 寿学級のクラブ活動を中学生が体験する事業や、生かがい大学生による小学生を対象とした昔の遊び体験事業を実施している。 ● 寿学級運営委員会や生かがい大学役員会で、学級・大学の運営について学級生と職員が一緒に考える中から、アイデアやニーズを吸い上げる仕組みをとっている。
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流レクレーション及び昼食会、合同講演会を通し、生かがい大学生と寿学級生の交流を図るとともに、統合準備委員会を設立し、平成30年度の統合を目指して協議を進めている。 ● 他町の高齢者学級との交流を実施したほか、小学校の異世代交流や「寺子屋塾」の園遊活動などを実施している。

項 目	課題解決のための方策	意見・課題等
学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の興味関心を呼び起こす事業を創設する。 ● 知識や知恵をもった高齢者から学ぶ機会を創設する。 ● ふるさとを伝える機会を創設する。 	
活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 生きがい大学・寿学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。 ● 次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。 	
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 知識や知恵を持つ高齢者を活かすコーディネートを充実する。 ● 長寿社会を生きてそれぞれの年齢に応じた学習ニーズを把握する。 	
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 生きがい大学と寿学級の相互交流を促進する。 ● 生きがい大学・寿学級と他団体との連携を図る。 ● 高齢者の豊かな経験を生かすために関係機関との連携を図る。 	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

芸術・文化活動 推進目標	芸術鑑賞と創造的文化活動を推進し、豊かな心を育てよう
項目	課題解決のための方策
芸術・文化の振興	<p>方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）</p> <p>良いもの見よう聞こう会と企画委員会ビッグ・ウェーブの2つの芸術鑑賞団体を中心に、年間100回程度の一般向け芸術鑑賞事業を実施しています。また、児童生徒向け芸術鑑賞事業は、教育委員会主催で計画的に実施しています。</p> <p>子ども陶芸教室、木工教室などを実施しているほか、子どもミュージカル体験事業では、プロの劇団員から直接指導を受けてレベルの高い体験事業が行われています。</p> <p>随時、ギャラリーを利用した作品展示会実施の相談、支援を行なっています。また「湧く湧く」で利用のPRもしました。</p> <p>文化連盟とその傘下団体等の活動を支援し、文化活動の振興を図りました。</p>
活動等の支援	<p>● 湧別・上湧別の文化協会の相互交流により、文化連盟の活動を支援します。</p> <p>● 芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努めます。</p> <p>● 各種ワークショップの開催により、文化活動に携わる町民の技術向上に努めます。</p> <p>● さざ波・TOM両文化センターの機能充実と有効活用に努めます。</p> <p>● 各種文化団体の活動支援により、文化センターの利用促進をはかります。</p> <p>● 芸術・文化活動の指導者・リーダーの養成に努めます。</p> <p>● 芸術・文化事業の情報提供に努めます。</p>
環境づくり	<p>2つの芸術鑑賞団体を中心に年間100回近い事業が、この制度を利用して実施されています。</p> <p>子どもミュージカル体験事業は、リーダーの参加者が多く、技術の向上が認められます。</p> <p>老朽化した設備を随時更新し、重大な故障や事故を防ぎ減らすことができました。</p> <p>くさざ波>音響設備、建物塗装 <TOM>音響設備、調光設備</p> <p>各地区総合文化祭での利用を始め、両文化センターを利用した文化活動が行なわれました。</p> <p>計画的組織的な養成はできませんでした。</p>
連携・ネットワーク	<p>「湧く湧く」を中心とした町広報、町ホームページの他、関連する鑑賞事業では、新聞折込や新聞広告などを活用し、広く情報の提供に努めました。</p> <p>自治総合センター（宝くじ）、道文化財団、北海道などから助成金をいただき、芸術鑑賞事業を実施するなど、関係機関との連携を図りました。</p>

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

項	目	課題解決のための方策	意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	芸術・文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努めます。 ● カルチャークラス、各種体験事業などの実施により、芸術・文化に親しむ機会を提供します。 ● 町民ギャラリー等を利用した展示会の開催及び奨励をはかります。 ● 各種文化団体・サークルの活動を支援します。 	
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 湧別・上湧別の文化協会の相互交流により、文化連盟の活動を支援します。 ● 芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努めます。 ● 各種ワークショップの開催により、文化活動に携わる町民の技術向上に努めます。 	
	環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● さざ波・TOM両文化センターの機能充実と有効活用に努めます。 ● 各種文化団体の活動支援により、文化センターの利用促進をはかります。 ● 芸術・文化活動の指導者・リーダーの養成に努めます。 ● 芸術・文化事業の情報提供に努めます。 	
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内関係団体をはじめ、道や他市町村、北海道文化財団等の関係機関との連携をはかりながら、芸術文化活動を支援します。 	

(推進目標と推進項目)

図書館活動推進目標		図書館は町の情報拠点 楽しく学び支え合おう	
項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況(ふりかえり)	
	図書館資料の収集、整理、保存	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の読書傾向をふまえた計画的な図書館資料の選択、収集に努めます。 ● 時代に適し、常に新鮮で適切な蔵書構成を維持するための管理に努めます。 ● 貴重資料のデジタル化を推進します。 	<p>両館の蔵書構成を見極めながら、司書が選書し収集を行った。 受入図書数 H25年 4,663冊、H26年 5,778冊、H27年 4,940冊</p> <p>蔵書点検を実施し、利用状況や、長期的展望に立って除籍作業を行った。 除籍後は、古本市事業を実施し、資料の有効活用を図った。</p> <p>郷土史研究会に協力し、H25年に郷土史「故郷の人 竜宮街道」「故郷の人 亜麻工場の思い出」を発行した。</p>
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	利用促進、読書機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 調べものの相談、案内を通して利用促進を行います。 ● 読書への興味を育てる環境整備を工夫します。 ● WEB OPAC(インターネットによる蔵書検索・予約)機能の備えた図書館システムの更新を行い、利用者の利便性を高めます。 ● 図書館情報の周知を徹底します。 ● 司書の専門性をさらに高めるための機会を拡充します。 ● 図書館に親しむための事業推進に努めます。 	<p>予約、リクエスト、調べもの、読書相談を受付ながら、来館者とのコミュニケーションを図った。</p> <p>特別開館を実施した。</p> <p>中湧別図書館のドア修繕、両図書館の図書配櫃の見直しを行った。古本コーナーを設置した。</p> <p>H26年に新蔵書管理システムを導入した。</p> <p>「図書館だより」「新着図書案内」「ブックガイド」を発行した。町ホームページ、広報、かわら版、「湧く湧く」に図書館情報を毎月掲載した。</p> <p>司書職員が管内外の研修会等に参加し、各種事業の内容に反映した。(講座事業、読み聞かせ会、ポップ作り、本の修理作業)</p> <p>講座事業、特別展示を行った。「ブックスタート」「絵本くらぶ」「読書会」「映画会」事業を実施した。</p>
	地域・社会との交流・団体活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 移動図書館の有効活用の再検討を行います。 ● 図書館職員と学校図書館担当教諭との密接な協力体制を整えます。 ● 子育て支援に関わる機関等との連携を一層強化します。 	<p>巡回時間、ステーションの見直しを行った。</p> <p>朝読書、読み聞かせ会の協力や調べ学習、図書館見学、職場体験の受入事業を行った。 読書感想文感想画コンクールを実施し、学校図書館運営相談の受入や「図書館利用ガイド」を発行した。学校図書館支援活動を開始した。 児童センター等の読み聞かせ事業を行った。</p>
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な施設との連携を持ち、図書館情報の発信、提供を行います。 ● 図書館ボランティアとの相互支援に努めます。 	<p>寿学級、生さがい大学等での読み聞かせ事業を行った。</p> <p>読み聞かせボランティアの育成を行った。(H25年、湧別高校ボランティア同好会が優良読書グループ北海道表彰を受けた)</p>	

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
図書館資料の収集、整理保存	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の読書傾向をふまえた計画的な図書館資料の選択、収集に努めます。 ● 時代に適し、常に新鮮で適切な蔵書構成を維持するための管理に努めます。 ● 貴重資料のデジタル化を推進します。 	
利用促進、読書機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 調べものの相談、案内を通して利用促進を行います。 ● 読書への興味を育てる環境整備を工夫します。 ● WEB OPAC（インターネットによる蔵書検索・予約）機能の備えた図書館システムの更新を行い、利用者の利便性を高めます。 ● 図書館情報の周知を徹底します。 ● 司書の専門性をさらに高めるための機会を拡充します。 ● 図書館に親しむための事業推進に努めます。 ● 移動図書館の有効活用の再検討を行います。 	
地域社会との交流・社会との団体活動 連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館職員と学校図書館担当教諭との密接な協力体制を整えます。 ● 子育て支援に関わる機関等との連携を一層強化します。 ● 様々な施設との連携を持ち、図書館情報の発信、提供を行います。 ● 図書館ボランティアとの相互支援に努めます。 	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

(推進目標と推進項目)

博物館活動 文化財保護活動 推進目標		地域の文化財の保護・保存環境の整備 ～ふるさとの豊かな財産を活かそう～	
項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）	既存の遺跡包蔵地の地番・地権者再確認作業の実施（継続中）
	学びの資料・情報づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努めます。（将来への投資） ●北海道指定文化財シブノツナイ遺跡の保全に努めます。（将来への投資） ●収蔵している石器、土器類の分類整理をすすめ、湧別地区の先史文化の調査研究を行います。（白滝ジオパークとの差異） ●天然記念物オジロワシの生息地に関する情報の蓄積と専門からの意見収集に努めます。 ●北海道指定文化財であるアッケシソウ群落の保護のため、塩生植物に関する情報の収集に努めます。（基礎情報の収集、展開は次回） ●資料の整理分類をすすめて、特に重要な資料に関しては、データベース・目録等の作成を行い情報公開に努めます。（屯田文書資料、明治から昭和20年代までの写真資料） ●日常生活への応用を資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用します。 ●先史の展示の充実に努めます。（郷土館） 	<p>平成27～29年度実施の道教委測量調査を支援。</p> <p>湧別市川遺跡遺物を中心とした資料確認作業と分析の実施</p> <p>オジロワシ等の天然記念物については環境省が所轄であるために、水産林務の担当となった。（平成26年）教委では現状変更（剥製の売買等）のみに対応することとした</p> <p>経過観察中。またアッケシソウの専門家を調査中。</p> <p>計呂地収蔵庫の廃止による資料の上小横収蔵庫への移動が平成28年8月12日完了。それにとちなう、内部整理作業が進行中。明治期の写真類は整理作業を完了。明治期の文書資料については平成29年度内に整理作業を行う予定。（先史別項）</p> <p>石器資料の分析により当時の生活環境の推測を行い現代生活との対比を分析中。</p> <p>明治開拓期の冬季生活文化について調査し、現代の応用を検討中。</p> <p>平成27年度「シブノツナイ2遺跡展」北方民族博物館共催によって「川西オホーツク遺跡展」を実施。また「湧別市川遺跡資料」を常設化した。</p> <p>先史文化に関する解説パネルを追加。写真パネルの作成を企画中（平成29年度）</p>
人、自然、ふるさとかから学び、地域と共に生きる	学びの場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代を担う子供たちに理解しやすい展示づくりを行います。 ●町の現在の姿がわかる展示づくりを行います。（郷土館・JRY） ●体験できる展示を増やします。（JRY） ●収蔵資料の安定的保存のために常設展示での収蔵展示をすすめます。（収蔵庫建設計画） 	<p>アイヌブームの展示を追加。湧別町合併の歴史を展示。常設展示の更新整理。</p> <p>安全性の配慮、資料の保護等を考慮し、学校教育時の体験学習で代用</p> <p>ふるさと館JRYの建物の芸術性を尊重するために内部整理簡素化を検討。収蔵庫の充実に転換。</p>

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
<p>人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる</p> <p>学びの資料・情報づくり</p> <p>学びの場の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努めます。(将来への投資) ● 北海道指定文化財シブツノツナイ遺跡の保全に努めます。(将来への投資) ● 収蔵している石器、土器類の分類整理をすめ、湧別地区の先史文化の調査研究を行います。(白滝ジオパークとの差異) ● 天然記念物オジロワシの生息地に関する情報の蓄積と専門からの意見収集に努めます。 ● 北海道指定文化財であるアッケシソウ群落の保護のため、掘生植物に関する情報の収集に努めます。(基礎情報の収集、展開は次回) ● 資料の整理分類をすめ、特に重要な資料に関しては、データベース・目録等の作成を行い情報公開に努めます。(屯田文書資料、明治から昭和 20 年代までの写真資料) ● 日常生活への応用を資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用します。 ● 先史の展示の充実に努めます。(郷土館) ● 次世代を担う子供たちに理解しやすい展示づくりを行います。 ● 町の現在の姿がわかる展示づくりに努めます。(郷土館・JRY) ● 体験できる展示を増やします。(JRY) ● 収蔵資料の安定的保存のために常設展示での収蔵展示をすめます。(収蔵庫建設計画) 	

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
学びの機会提供	●文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努めます。	遺跡見学を含めた先史文化学習プログラムの試行実施。
	●先史・開拓を知る体験学習を拡充します。	土器づくり、勾玉づくりによる先史文化の学習、薪による炊飯による開拓期食・燃焼・燃料についての学習等を実施
	●学校利用の促進に努めます。	年間50件程度の見学体験の対応を行っているために特に促進の必要はないと考える。今後はカリキュラムの変化、少子化等で利用件数は減少するであろう。内容の充実重点をおきたい。
	●出張学習の内容充実を努めます。	出張授業における先史資料の提示のための機材を充実。実物資料に触れる機会を増やした。
	●学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充します。	生涯学習学会での発表等を行い、対外的評価を受け専門性、教育力を高めている。
	●広報を活用し、博物館活動の周知に努めます。	先史文化への理解ため、多彩な情報を掲載した。

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
学びの機会提供	●文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努めます。	
	●先史・開拓を知る体験学習を拡充します。	
	●学校利用の促進に努めます。	
	●出張学習の内容充実に努めます。	
	●学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充します。	
	●広報を活用し、博物館活動の周知に努めます。	

(推進目標と推進項目)

スポーツ振興の推進目標	スポーツは健康のみならず、いつまでもみんな楽しんで楽しむ
-------------	------------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況（ふりかえり）
生涯スポーツの普及	●ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を提供し、健康や体力づくりの増進と住民相互の交流の推進に努めます。	小学校低学年に対するチャレンジスポーツスクール、学生に対するストレッチやランニング教室、一般向けの各種教室やスポーツ大会のほか、高齢者でも気軽にできるノルディックウォーキング教室の実施など、各年代それぞれライフステージに合った事業を行うことで、健康や体力づくりの増進が図られた。
	●多種多様なスポーツニーズに対応するため、ニュースポーツの研究・普及に努めます。	自らの適性に合った運動を課す目的でもある「チャレンジスポーツスクール」を通じ、「フロアボール」や「タグラグビー」など普段経験することのできないニュースポーツを経験させている。また、職員・スポーツ推進委員の研修において、既存のスポーツから新たなスポーツまで、今後の取り組みに活かすべくさまざまな分野の研究に努めた。
活動等の支援	●体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努めます。	自主的な活動を支援するための補助を適正に行うことができた。
	●健康・コミュニティづくりのため、身近な地域でのスポーツ活動支援に努めます。	各種教室を通じてスポーツによる健康づくりへの一助を担うことはできたが、コミュニティづくりや任意的に活動している団体に対しての活動支援までには至らなかった。
学習環境づくり	●学校の施設を一般市民に開放し、スポーツの日常化と健康の維持増進に努めます。	地域によっては町内総合体育館の利用が不便である方々に対し、学校施設を開放することで、スポーツを支援しやすく快適に活動を行うことができた。
	●スポーツ団体の指導者やリーダーの養成を図り、指導体制の充実を図ります。	指導者不足問題は小規模市町村では大きな問題となっており、本町も例外ではなくこれといった対応は取れない状況である。この問題の解決方法については、町内で活動している各団体やスポーツ推進委員等と連携しながら考えていかなければならない。
	●スポーツ・文化遠征費補助制度の活用により、全道及び全国大会への参加促進に努めます。	本制度により、スポーツを行う各団体・個人が生き生きとスポーツを楽しむ上位大会を目指すことができており、また、補助に対する不公平感を持たれないよう、補助手続きには慎重を期し、適正に処理を行うことができた。
	●外部指導者等の招聘により、高度な技術習得の支援に努めます。	各教室の開催にあたり、専門的な知識・技能を持つ外部指導者を積極的に招聘してきた。種目によっては世界的な技術を持つ方も招聘しており、スポーツに対する意欲の向上や高度な技術習得の支援に努めることができた。
連携・ネットワーク	●町民が身近でスポーツに親しむための環境づくりに努めます。	体育施設を管理している指定管理者と連携しながら、各施設とともに町民が快適に利用できるよう、利用者の意見・要望を聞き入れながら、施設の整備・補修等環境づくりに努めた。
	●スポーツ推進委員の連携強化を図り、スポーツの推進に努めます。	毎月1回開催しているチャレンジスポーツスクールや、町内で開催される大会等への支援など、町内におけるスポーツの推進に努めていただいた。今後は多種多様なスポーツニーズに対する研究、それらを発信できる場を創出するために、一層の連携を図っていただきたい。
	●体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等との連携強化とネットワーク化を図り、スポーツの振興に努めます。	各団体への個別支援（金銭的補助等）、町民300歳バレーボール大会開催にあたっての自治会との連携はできているが、それらを超えるネットワーク化までには至っていない。まずは、ネットワークを繋げることで何ができるのかを考えたければならない。

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
生涯スポーツの普及	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を提供し、健康や体力づくりの増進と住民相互の交流の推進に努めます。 ● 多種多様なスポーツニーズに対応するため、ニュースポーツの研究・普及に努めます。 	
活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努めます。 ● 健康・コミュニティづくりのため、身近な地域でのスポーツ活動支援に努めます。 ● 学校の施設を一般市民に開放し、スポーツの日常化と健康の維持増進に努めます。 ● スポーツ団体の指導者やリーダーの養成を図り、指導体制の充実に努めます。 	
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ・文化遠征費補助制度の活用により、全道及び全国大会への参加促進に努めます。 ● 外部指導者等の招聘により、高度な技術習得の支援に努めます。 ● 町民が身近でスポーツに親しむための環境づくりに努めます。 	
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ推進委員の連携強化を図り、スポーツの推進に努めます。 ● 体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等との連携強化とネットワーク化を図り、スポーツの振興に努めます。 	
人、自然、ふるさとしから学び、地域と共に生きる		

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標	生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう
---------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取り組み状況(ふりかえり)
学習推進体制整備	●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。	社会教育関連事業の周知に努めるなど、これまでとおり関係機関や団体との連携強化に取り組んでいる。また、団体が自主的に学習活動を行うための人的支援、金銭的支援のほか、生涯学習情報紙の発行や相談体制の充実を図っている。
	●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。	
施設整備・活用・連携	●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。	指定管理施設については、指定管理者への指導助言を行っている。また、指定管理施設とそれ以外の施設についても連携を強化し、効果的な活用を図るなど学習サービスの向上に努めている。
	●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。	
学習情報の収集提供・相談体制の充実	●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。	生涯学習情報紙、町広報、町ホームページ、遠軽地区なななんと情報を活用し、情報提供している。町民が必要としている情報(ニーズ)を的確に把握するとともに、知らせるべき内容を明確化し、わかりやすい紙面づくりに努めている。
	●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。	
指導者の養成・活用・団体活動支援	●住民の多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘・養成し、人材の活用に努めます。	人材育成に向けて、活動の機会や情報の提供に努めているものの、計画的・組織的な指導者養成はできていない状況である。
	●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、自治会やサークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。	
連携・ネットワーク	●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。	生涯学習振興奨励事業補助金の適正な活用により、自治会やサークル等の自主的な学習活動に対する支援に努めている。(自治会向けは、平成27年度をもって終了)
	●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部署、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる

項目	課題解決のための方策	意見・課題等
学習推進体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。 ●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。 	
施設整備・活用・連携	<ul style="list-style-type: none"> ●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。 ●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービス向上に努めます。 	
学習情報の収集提供・相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。 	
指導者の養成・活用・団体活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。 ●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。 ●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、自治会やサークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。 ●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。 	
連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部署、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。 	

人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる